



令和5年度 中丹地方中高連携推進会議

7月3日(月)に、本会議を実施しました。すべての子どもたちが自立し、「豊かな」未来を切り拓いていくことができる資質・能力の育成を目指すこと、子どもたちの将来を見据えた系統的なキャリア教育の重要性を認識し、誰一人取り残さない進路指導や進路事務の在り方についての理解を深めることを目的とし、中学校と高等学校の教員が校種の枠を越えた交流や協議を行いました。

局長挨拶

進路指導は、生徒のことを知り、進路先のことを知った上で、生徒の将来のために一緒に進路を考え、アドバイスをすることが重要です。

目まぐるしく社会が変化し、予測が困る時代においても、意欲的に学び、失敗を恐れず粘り強く努力する姿勢等をはぐくむため、それぞれの発達段階を踏まえ、中学校と高等学校が生徒の将来を見据えて系統的に取り組んでほしいと思います。



課題提起

「生徒が自ら将来とのつながりを見通しながら資質・能力を身に付けていくこと」や、「生徒が主体的に進路選択できるような教育活動になっているか」という点について、進路指導の全体計画を見直すことの重要性について触れました。さらに生徒・保護者への幅広い情報提供を通して、生徒が本当に今考えている進路が良いのか、他の選択肢はないのか等についてしっかりと考えた上で進路を決定すること、そのための教員の情報収集の重要性について確認しました。

生徒指導提要をもとに、すべての子どもたちの学びや進路を支える視点に繋がる発達支持的生徒指導の重要性に触れました。



府立高等学校の説明

高等学校の先生に、各校の説明をお願いしました。中学校の進路指導(特に三者面談等)の際に参考となるような情報提供をしていただき、学科、系統、コース等で育てたい生徒像や学校の特色、受検しようか迷っている中学生に伝えたい高校の強み、高等学校で学ぶ不安解消のために、学力や生活に不安のある生徒に対して取られている手立てや方策等にも触れていただき、中学校の先生方にも大変参考になる内容でした。



研究協議

中学校と高等学校それぞれが、生徒の社会的自立に向けて現在行っていることを書き出し、グループで交流しました。共通で行っていることとして、「基礎・基本の定着に関する指導」や、「生徒のアウトプットの機会を増やしていること」、「挨拶や言葉遣いなどの社会的マナーへの声かけ」等を行っており、系統的に学ぶための連携の重要性に気付くことができました。



振り返り・感想

今回の会議を通じて学んだことを、参加された先生方に振り返っていただきました。(一部抜粋)

- ・ これからの社会に必要な力を、小中高の中でどのようにつけさせたいのか、ビジョンを持つ必要があると感じました。(中)
- ・ 中学校と高等学校で、生徒の先を見据えた支援の在り方は共通している部分が多く、しっかりと系統立てて見ていくことが大切であると感じました。(中)
- ・ 高校生と中学生が、連携した授業や交流ができる場を設定したい。(座談会などもよい。)(中・高)
- ・ 高校の先生方が、社会に出ていくことを意識されたきめ細かな指導をされていることを知りました。中学校で必要な力をつけさせて送り出したい。(中)
- ・ 同じ普通科でも、違いがあることなど、説明を聞くことによる発見がありました。(中)
- ・ 交流で中学校での手厚い指導を感じました。(高)
- ・ 中学校の先生方が感じられている不安などを丁寧に説明する教職員間連携の強化が必要だと感じました。(高)
- ・ 中学校と高等学校の共通点を見出すことができました。中学校の指導を踏まえた高等学校での指導を意識していきたい。(高)



3. 今後中学校と高等学校でどのような取組が社会的自立につながると考えられますか。その意義や考え、今後行いたい取組、の欄に何筆でも取り付けてください。

中学校で行っている取組	共通の取組	高等学校で行っている取組
子どもたちの成長のため、校種を越えて同じ思いで教育活動を展開されていることが共有できました。	基礎・基本の定着に関する指導 学習の自己管理 挨拶や言葉遣いなどの社会的マナーへの声かけ	中学校と高等学校で共通している取組として、「生徒との対話」、「主体性を育むこと」、「人権意識の高揚」、「キャリア教育」等が挙げられました。
これから行いたい取組		
①大人と対話し	②自己肯定感の高い高1生	③保護者への呼びかけ